

きたそらちINFORMATION

4月1日から10月31日まで

ATMの営業時間が変わります!

店舗名	平日	土曜日	日曜日・祝日
本所		9:00~17:00	9:00~17:00
金融共済音江支所			
金融共済深川支所			
金融共済納内支所			
金融共済多度志支所	9:00~18:00	9:00~12:00	稼働しません
金融共済雨電支所			
金融共済北電支所			
北電町COCOWA			
金融共済堀加内支所			

※各店舗(窓口)平日9:00~16:00

※祝日の影響により営業を休止させて頂く場合がございます。

くわしくは右記までお問い合わせください。金融共済部(貯金・融資) TEL:0164-22-6618

1日バイトアプリ daywork x きたそらち

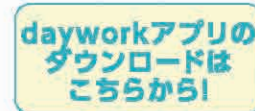
JAきたそらちでは、農家で働きたい人と組合員(農家)をつなぐマッチングアプリ「daywork」を活用しています。

「daywork」は、求人募集している農家を簡単に探すことができ、一般の方が対象のため、農業の経験がない方でも大丈夫です。求人は1日単位の短期雇用を基本とした募集ですので、空いた日・空いた時間だけ働くことが可能です。

また、農業や食について体験しながら、気分のリフレッシュや人手不足が課題となっている農業の活性化・社会貢献にもつながります。日本の農業のためにぜひご利用下さい。



iPhoneから
Download on the
App Store



dayworkアプリの
ダウンロードは
こちらから!



Android™から
GET IT ON
Google Play

JAマイカーローン



JAきたそらち
キャンペーン利率
年2.50% ▶ 1.70%~1.30%

読者の声

「ほっときたそらち」にお寄せいただいたご感想の一部を紹介します!

コロナ禍で「堀加内町新そば祭り」が中止、「ふかがわ新そばマルシェ」も行けませんでした。『ほっときたそらち』でそばを感じさせて頂きました。(深川市 60代 女性)

きたそらちのそばへの強いこだわりを知ることができました(雨電町 70代 男性)

空知に来て、そば打ち段位を取得しました。下手でも手打ちしたそばは美味しいものです。生産者の方々の応援のためにも、たくさん農産物を食べますね。(深川市 30代 女性)

見やすいように工夫編集されています。これからも色々な企画に期待します。(北電町 30代 男性)

以前より、乾麺は水に浸して茹でると良いことは知っていましたが、まだやったことはなかったもので、今回のそばの美味しい食べ方を参考に挑戦してみます。(堀加内町 40代 女性)

これからも「きたそらち」に寄り添う誌面をお願いします。(深川市 50代 男性)

「ほっときたそらち」プレゼントクイズ

問題

SDGsで掲げられている目標の数はいくつでしょう?

ヒント:数字2桁

正解者の中から、抽選で**10名様に**
JAきたそらち産米パックご飯食べ比べセットを
プレゼントいたします!

応募方法

JAきたそらちホームページ特設応募フォームまたはハガキ、FAXで、①クイズの答え②住所、氏名、年齢③「ほっときたそらち」に対するご意見ご感想を記入の上ご応募下さい。締め切りは4月30日消印有効で、クイズの答えは当JAのホームページ・Facebookページ上にて5月上旬に発表します。なお、当選者の発表につきましては、商品の発送をもってかえさせていただきます。

【送り先】

〒074-0022 深川市北光町1丁目10番10号

JAきたそらち 総合企画室企画広報課

FAXの場合は 0164-22-8611

【JAきたそらちホームページ特設応募フォーム】

URL: http://www.ja-kitasorachi.com/application_form/

締め切り
4月30日
消印有効

編集後記

今冬は、ラニーニャ現象による豪雪で除雪に追われる毎日でしたが、春の訪れで雪解けも進み、生産者の皆さんの春作業は順調に進んでいます。昨年からコロナ禍によるストレスが溜まる日々が続いていますが、日本でワクチンの接種が始まったこともあり、このまま少しでも早くこの事態が収束し、平穏な日常が戻ることを、そして昨年同様、本年も天候に恵まれ豊れ多き出来秋を迎えられることを願います。

JAホームページ・Facebookにアクセス

JAきたそらちのホームページ・Facebookにお役立ち情報を掲載。今すぐアクセス!!



ホームページ



Facebook

ぼっと
きたそらち

第6号
2021年4月発行

発行元

きたそらち農業協同組合 総合企画室
深川市北光町1丁目10-10
TEL 0164-22-6600



米ぬか油を使用した環境にやさしいライズインキで印刷しています。

JAきたそらち コミュニティ情報誌

ぼっと
きたそらち

SDGs
×
きたそらち

第6号
2021年4月

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



最近、テレビや新聞などで「SDGs」という言葉を一度は見たり、耳にしたことはありますよね。

なぜ、いま「SDGs」が広く注目されているのか…。

実は、「SDGs」と「協同組合」には深いつながりがあるんです!そこで今回は、【SDGs×JAきたそらち】と題し、「協同組合」と「SDGs」の関係性や、「JAきたそらち」が「SDGs」の達成に向けて行っている取り組みについてご紹介いたします!!

「SDGs」とは?

「SDGs」は、「Sustainable “サステナブル” (持続可能な) Development “ディベロップメント” (開発) Goals “ゴールズ” (目標)」の略語で、日本語では「持続可能な開発目標」となります。「世界中の人々がこのままの状態で生活や消費を続けると、あらゆる資源がなくなり地球に住めなくなってしまう。自分たちの地球を守るために2030年までという期限を決めて、世界中の人々全員で協力して解決したい目標」ということになります。

「SDGs」は、2015年の国連サミットで採択され、「誰一人取り残さない」という行動理念のもと「17の目標」と目標を具体化した「169のターゲット」から成り立っています。

「SDGs」が目指す17の目標は3つの分野に分けられ、①地球環境を守りながら、②全ての人が尊厳を持って生きられる社会と、③誰もが豊かな暮らしを継続的に営むことができる経済を実現することで、誰一人取り残さない世界を目指すことがSDGsの目標です。





環境

近年、地球温暖化や各地で起こる災害、また菅義偉首相の「2050年までの脱炭素社会（カーボンニュートラル）実現宣言」等により、エネルギー問題が注目を集める中、JAきたそらちでは、限りある資源を大切に、地域の生産環境を守るためにも小さなことから取り組んでいます。

地域環境を利用した農産物の貯蔵システム

米やそばなど農産物の品質や食味を維持させたまま保管するため、冬期間の外気や豊富な雪資源による冷気を活用することで、温度を下げるために使うエネルギーを削減し、最適な温湿度環境で農産物の貯蔵を行っています。



雪の御殿（幌加内町）

グリーン農業への取り組み

北海道では、安心・安全に生産された美味しい農産物に「YES! clean」という登録商標を付けることができます。JAきたそらちでは、安全・安心・新鮮・高品質な農産物を消費者の皆様にお届けします。



JAきたそらち太陽光発電所

2013年、道内JAにおいては初めて太陽光発電所を設置しました。JAの敷地内に設置した1,976枚の太陽光パネルで一般家庭約125戸分相当の電力を発電しています。



廃プラスチック処理

農業の過程で使用されるビニール等の様々なプラスチック資材は、使用後に廃プラスチックとして回収し、再生プラスチック「ペレット」としてリサイクル処理されます。

「協同組合」と「SDGs」

世界には、様々な協同組合が存在し、日本組合（生協）、「信用金庫（信金）」、「信用組合」などがあります。

協同組合は、SDGsが国連サミットで採択されており、世界中の協同組合が共有する「協同組合やり方によって、地域社会の持続可能な発展に努め、そして協同組合の精神である「一人は万人の理想」「誰一人取り残さない」と非常に近いものとこのように、SDGsの達成において協同組合が果たす役割には、大きな期待が寄せられています。



SDGs



JA変革ビジョン2030

JAきたそらちは、未来永劫、人々へ「おいしい」という幸せを届け続け、すべての世代の農家が誇りと生きがいをもって営める「農業」を創造し続けることで、地域社会へ貢献します。それがJAきたそらちの存在意義です。

《JAの基本理念・存在意義》

「農業振興を通じて 地域社会へ貢献」

《ビジョン》

日本一の米産地になる

《めざす地域農業の姿》
作り手・売り手・買い手の
三方よしの
地域農業の確立

《求められる組織体制》
JAの健全経営による
全組合員を
生涯サポート

JAきたそらちは、2030年を目標に『日本一の米産地になる』ことをビジョンと『日本一の米産地になる』農畜産物を生産・供給し続け生涯通じてサポートし続け、実現します。



福祉と暮らし

SDGsでは、「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」ことを目指しています。誰もが、安全に暮らしやすいまちづくりをすすめる総合的な計画をつくり、実施することが必要となり、JAきたそらちでは、健康や福祉に配慮した取り組み、年齢や性別、障害などに関わらず労働の機会を提供、さらに気候変動や災害等の被災者への支援も行うなど、誰一人取り残さない地域社会の実現を目指しています。

給油所に自家発電装置を設備

2018年の胆振東部地震による大規模停電を教訓として、JAの各給油所に「自家発電装置」を導入し、災害発生時においても、ほぼ通常と変わらない営業を可能としています。



除雪ボランティア

JA青年部では、高齢者宅を訪問し除雪ボランティア活動を行い、ひとり暮らしや体が不自由な高齢者の生活を守っています。



農福連携

労働力を必要とする生産者と近隣の福祉事業所をマッチングさせる「農福連携」の取り組みを行っています。



ボランティア部会による活動

JAきたそらちの各ボランティア部会では、地元農産物で作ったお菓子の贈呈や花植えボランティア、老人ホームでの施設ボランティアなど様々な活動を行っています。



食農教育

JAグループでは、「食」がもつ多様な役割を伝える「食育」をさらにパワーアップし、「食」を支える根本である「農業」に関する知識・体験も含んだ「食農教育」を実施しています。JAきたそらちでは小学生等を対象とした「食農教育」を実施することで、「食」と「農業」のつながり、またこれらが担う様々な価値を学んでもらいます。

花育授業

小学生を対象とした「花育授業」を実施し、採花体験やフラワーアレンジメント体験を通して、子ども達に実際に花に触れて身近に感じてもらいます。



食農教育教材の贈呈

農業や食、環境、またそれらに関わる経済活動などを、子ども達にもわかりやすく説明されている、食農教育教材をJA管内の小学校へ贈呈し、次世代を担う子どもたちに農業への理解を深めてもらいます。



田植え・稲刈り体験学習

地域に根ざした特色ある教育の一環として、小学生を対象に「田植え・稲刈り体験学習」を実施しています。JAの若手農家の集まり「青年部」が小学生の指導にあたります。



女性の活躍

JA女性組織では、SDGsを「女性組織活動そのもの」と位置付けし、自らの活動とSDGs17の目標項目を関連付け、地域の課題を解決することが地球規模の課題解決につながっていることを認識しながら、地域で輝き続けられるよう取り組みを進めています。JAきたそらち女性部では、食農教育活動のサポートや社会福祉活動、ボランティア活動などを通じ、SDGsの達成に貢献しています。

食農教育活動のサポート

保育園児の味噌作り体験や小学生の豆腐作り体験などの食農教育活動において、JA女性部員が指導にあたります。



JA女性大学「カレッジあみていえ」

JA管内に住む組合員やその家族の女性を対象とした、JAきたそらち女性大学「カレッジあみていえ」を昨年開校し、元気な地域づくり・心豊かな仲間づくりを目指し次世代を担う女性リーダーの育成を行っています。



部員タオール一本運動

JA女性部員が自宅にあるタオルを一人一本持ち寄り、各地域の福祉施設へ贈呈しています。この運動は2004年より毎年行われ、これまで12,000枚以上を贈呈しました。

